

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ほうせいだいがくじょしこうとうがっこう				②所在都道府県	神奈川県
27～31	①学校名	法政大学女子高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1学年 268名	2学年 261名
普通科	268	261	255		784	3学年 255名	
⑥研究開発構想名	持続可能な社会の実現を担うグローバル・リーダー育成プログラム(GLP)の開発						
⑦研究開発の概要	<p>持続可能な社会の実現に向けて解決すべき諸問題を3領域「多文化共生」・「グローバルキャリア」・「エンバイロメンタル・スタディーズ」に大別し、各領域を、実際社会での問題解決のアクションを体験するアプローチ：The Program “Your Awareness Saves the Society” (PASS)と、専門家の講演やワークショップに参加し学術的に探究するアプローチ：「専門講座」の2つから学ぶ取組みを行う。前者は、主に企業やNPO団体および行政の取組み等との連携により、後者は、主に法政大学をはじめとする国内外の大学等との連携により、実現させる。これら2つのアプローチを通じて、社会への高い参画意識や行動力、ならびに、論理的思考に基づく問題抽出力やその解決能力の育成を図り、次世代のグローバルリーダーに必要な資質を体得させる体系的なプログラムを開発する。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標                  持続可能社会の構築を担う強力なグローバルリーダーには、自分と他者、あるいは人々の差異や共通の目的に気づき、それを客観化し、表現する力が必要である。発想原理や状況認識の違い、利害の不一致、文化的・政治的背景の違い等から逃避しない粘り強い姿勢としなやかな感性が求められる。本教育プログラムは、これらの素養を生徒に体得させるにあたり、世界が抱えるさまざまな社会課題を「多文化共生」「グローバルキャリア」「エンバイロメンタル・スタディーズ」の3つの領域に分け、それぞれの領域において学術的、体験的の2つのアプローチで臨む。各領域・各アプローチにおける成果の発表のみならず、総合的な成果を国内外に向け発表・発信する場を設け一連の取組みにおける成果の検証を狙う。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説                  SGH アソシエイトとしての活動、アクティブ・ラーニングの導入などが契機となり、生徒の学術関心の深まり、社会課題の自発的な取り組みなどが生まれつつある。しかしそれらはまだ十分なものになっていない。この背景には、「社会の一員」としての意識と「学び」の意欲が、相互的に深まっていく教育課程が十分に体系化されていない、という問題があるだろう。学術関心の深まりと社会への意識の深まりを有機的に関連づけるプログラムの構築によってこの課題は解決に至ると考えている。</p> <p>(3) 成果の普及                  研究の成果は本校HP（ホームページ）上にも逐次公開する。他のSGH 高校生や広く市民に向けた持続可能な社会構築に向けた提言の発表を含む、成果発表会等を行う。また、研究成果をまとめ、「法政大学教育研究」等の研究紀要への発表も行うとともに、海外大学・高校との研究交流を実施する。</p>					
	⑧-2課題研究	<p>(1) 課題研究内容                  「多文化共生」・「グローバルキャリア」・「エンバイロメンタル・スタディーズ」の3つの研究領域で構成された本校独自の「グローバルリーダー・プログラム(GLP)」を設定する。このGLPは、「PASS」(The Program “Your Awareness Saves the Society”)と「専門講座」の二種類のアプローチを有する。この2つを有機的に関連させ、持続可能な社会の実現に貢献する課題発見能力・解決力をともに深める。「PASS」は、三年間の総合的学習の時間での取り組みである。社会に参与する「PASS」を通じて、社会意識、キャリア意識、学びの意欲などが涵養され、それらの深まり</p>					

	<p>は「専門講座」でも生かされていく。「専門講座」は2年次、3年次に設定され、講座ごとにオリジナリティのある学術的な取り組みを行う。学びの成果は、学内外での成果発表だけでなく「PASS」へも還元される。そして海外におけるプレゼンテーションの機会を生徒の最大の目標に位置づけ発信力の定着を図る。</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b> 3つの研究領域ごと、2つのアプローチごとに生徒が取り組む研究課題を以下に記す。</p> <p><b>① 多文化共生</b> PASS：様々な国籍の人が在住している鶴見区という学校の地の利を生かし、多文化社会を実体験しそこにある課題の抽出力と解決力を体得する。鶴見区で活動しているNPO法人ABC ジャパンや、横浜市国際交流協会の協力を仰ぐ。 専門講座：歴史をつなぐ、横浜中華街とヨコハマの歴史といま（地域文化）、“笑いとユーモア”の文化比較（笑いを通じた比較文化）、記号学（日本のコンテンツ文化の研究）など。</p> <p>□ <b>グローバルキャリア</b> PASS：さまざまな企業とMFC（マイ・フューチャー・キャンパス）を通じて連携し、企業による講演、職場の実体験、社会人とのワークショップなどを実施。ワークライフバランスの問題などの社会課題を、グローバルな観点から見出す力、その解決力を体得する。 専門講座：世界のキャリアデザイン（英語圏の若者と日本の若者のキャリアデザインの違いについて、考察を深める）・映像文化と自己表現（映像表現を通じた自己認識の深まりと捉え直し）・世界の女性とわたしたち（日本と途上国の女性についての課題研究と具体的なアクション）など。</p> <p><b>③ エンバイロメンタル・スタディーズ</b> PASS：キリン(株)環境推進部（予定）との協働により、環境に関する課題についての講座とワークショップ・生徒自身の発表を行う予定。また、現在も取り組んでいる「全国高校生エコアクションプロジェクト」を継続し、生徒による環境課題に関する提言を行っていく。 専門講座：サピエンス学（文理融合の視点で人と自然の関係を模索）、人間と動物の新たな関係の構築（現代人と動物の関係の考察） 3つの研究領域における「PASS」は、法政大学教員にアドバイザーとして協力いただきながら、講座内容をデザインする。専門講座では、どの講座でも校外研究やフィールドワークを豊富に実施していく。講座によっては海外での研修旅行も行う。また、法大教員の講義・高大連携のワークショップを適宜実施する。 上記すべての取り組みにおいては、レポートを課し、学内外での成果発表を行う。それによって、生徒自身に達成度を確認させる。これは同時に、教員の検証の機会となる。特に、海外で実施される学術発表の場は、生徒の達成が普遍性を有しているかを検証する機会となる。</p> <p><b>必要となる教育課程の例等：なし</b></p>
⑧-3 上記以外	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b> ○グローバルな探究力に必要な英語運用能力育成の取組（英語授業で外国人教員による英語ディスカッション、プレゼンテーションなどアクティブ・ラーニングスキル育成/外国人教員によるワークショップ/イギリス語学文化研修/カナダ語学文化研修等）。○PMC（Program for Media Literacy &amp; Critical Thinking, 情報科授業におけるインターネット等の情報特性理解やプレゼンテーション方法の習得/小論文講座/図書室（メディアセンター）によるメディアの批判的読解プログラム等の体系化）。○グローバル探究カリキュラム開発研究（探究型授業、一部科目での英語イマージョン授業の導入、卒業プロジェクトの開発により、学校全体の教育課程をグローバル探究型に移行させる。）</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等：当面なし（H29年度より科目一部での英語イマージョン授業導入）</b></p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</b> ○豊かなダイバーシティ環境整備（グローバル入試の実施、留学生受入拡充、外国人学校・インターナショナルスクールとの交流等）。○法政大学との高大連携英語強化プログラム（留学生とのワークショップ・キャンプ/課題解決提案プレゼンテーション大会など）。○1年次末の台湾研修旅行/フランス語・ドイツ語・中国語などの第二外国語選択授業など。</p>
⑨その他特記事項	特になし

ふりがな	がっこうほうじんほうせいだいがく ほうせいだいがくじょしこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	学校法人法政大学 法政大学女子高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	300人
	SGH対象生徒以外:		53人	39人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 教科活動以外の自主的な学校外での取組み全般を指す。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:		45人	38人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 海外交流プログラムの充実により海外志向の向上を図る。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		40%	40%	%	%	%	70%
目標設定の考え方: グローバルリーダー育成の積極的な取組みにより海外志向の大幅な向上を図る								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:		21人	17人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: グローバルリーダー育成の積極的な取組みにより、各種大会等への参加機会が増える。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	20%
	SGH対象生徒以外:		6%	8%	%	%	%	10%
目標設定の考え方: 英語教育の充実をさらに図り、5倍増を目指す。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	95%
	SGH対象生徒以外:		85%	85%	%	%	%	95%
目標設定の考え方: グローバルリーダー育成の積極的取組みにより、国際化に重点をおく大学への進学志向を一層高める。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	15人
	SGH対象生徒以外:		1人	2人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 海外進学の進路指導の充実を図る。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 高大接続の連携の充実をさらに図る。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	15人
目標設定の考え方: グローバルリーダー育成の積極的取組みにより、海外志向の向上を図る。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	1人	0人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 海外への研修を継続して奨励すると共に、複数の海外研修をあらたに準備する。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	12人	46人	人	人	人	人	人	80人
目標設定の考え方: 研修への参加を継続して奨励すると共に、あらに国内研修の場を準備する。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	2校	校	校	校	校	校	6校
目標設定の考え方: 26年度より連携開始した台湾の大学・高校に加え、中国・韓国・ベトナム・オーストラリアにも連携する大学・高校を増やす。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0人	33人	人	人	人	人	人	400人
目標設定の考え方: SGHの取組みにより外部人材の参画は劇的に増加する。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	15人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: SGHの取組みにより外部人材の参画は増加する。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	14人	人	人	人	人	人	25人
目標設定の考え方: 各研究課題に関する公益性の高い大会への参加を目指す。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	0人	1人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 帰国生の入学数の増加を図る。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	1回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方: 積極的に成果普及に努める。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 滞りなく整備する。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	765	784	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							